

第20回自殺予防いのちの電話公開講演会質問票

末松先生への質問4件 →赤字が末松先生からの回答

① マザーテレサは、さまざまなことから解放を願っていながら、自死という選択をしなかったのか？

マザーテレサの祈りは、「ボランティア精神は、意識してしないと、容易に利己主義に陥る危うさも持っている」ことへの自戒として、ご紹介しました。彼女の言葉や行動からは、自死も考えたことあるのではと感じるほど、「捨身の心」を感じます。

② 四半世紀前から、コーラーの「私は少年が好きです、いけない・止めないといけないと思っている」と言う相談に対して「変わりたいと思っているのですか？」と対応してきました。最近のジャニーズのニュースに触れて、そんな対応でよかったのかと課題を貰ったような気がしています。どんな対応をすればいいのでしょうか？

私たちは受話器を置いた後、「あの対応でよかったのか」と思い悩みことが多いですね。「変わりたいと思っているのですか？」が、「話を聞いているうちに感じる」「変わりたいと真剣に思っておられるのか」、それとも「変えたくとも変えられないという複雑な悩みを伝えられているのか」をご本人に確かめないとわからないですよ。誠実な対応が、私は一番大切だと思っています。その意味では、思い悩むこと・

心の揺らぎ自体が、新たな「善き出会い」への心の栄養となると思います。

③ 相談員になりたいと思っていますが、感情の起伏が激しい方です。なので相手と同調してしまいがちです。相談員には向いていないでしょうか？

私たちは、大なり小なり、感情の起伏があるのが自然だと思います。「感情の起伏が激しい」は、「熱しやすく冷めやすい」ということでしょうか、「同情しすぎる傾向がある」ということでしょうか。自分らしさ（くせや傾向も含めて）を「思いやる心」に活かすために、同じ志の仲間と学びあう体験や知恵を増やすための養成研修があります。関心がおありでしたら、ご参加ください。

④ 世間が決めた「幸せの価値」家・お金・学歴に心を囚われて、心が沈んでいる人に「視点が変わると、人生が変わる」と伝えたいのですが、どうすればいいでしょうか？ただ、その人の話が至らない私には、愚痴に聞こえてしまいます。でも今は聞くだけです。

「視点が変わると、人生が変わるのですね」という言葉が聞ける‘出会い’になれば、嬉しいですね。具体的な人との関わり・体験を通してこそ、「この’気づき’の言葉」が浮かんでくるようです。愚痴（心にたまっているもの）は、話すこと（聴く相手がいること）によって、‘気づき’にもつながるようです。ご参考までに。

※文言はできるだけ変えないで記載しています。